

第 50 回目 主にあって強くあれ (5)

はじめに

●引き続き、今回も神が私たちに与えておられる神の武具について学びたいと思います。私たちの戦いの相手は人間ではなく、「暗やみを支配する者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」つまり、目に見えない霊的な存在、すなわちサタン(悪魔)との戦いです。この戦いにおいて、私たちが勝てるものは私たちのうちには何もありません。ですから、神の武具が与えられるのです。悪魔のすべての策略に対して立ち向かうことができるためには、神が私たちに与えて下さっているすべての武具を身に着ける(完全武装)の必要があるのです。もう一度、そのリストの全体像を見てみましょう。

●使徒パウロが神の武具として挙げているものは七つあります。

- (1) 真理の帯を腰に締めなさい
- (2) 義の胸当てを着けなさい
- (3) 平和の福音を足にはきなさい

(4) 信仰の大盾を取りなさい(←今回のテーマです)

- (5) 救いのかぶとをかぶりなさい
- (6) 御霊の与える剣—神のことば—を受け取りなさい
- (7) 御霊によって祈りなさい

●七つの神の武具、聖書で「7」という数字は完全を意味する数です。つまり、神の武装で完全武装するようになることが命じられています。これらの七つはすべてみな密接な関係をもっています。七つの武具を身に着けることによって、はじめて私たちは敵の悪魔の策略に対して打ち勝つことができるのです。

●その最初のリストにあがっている「真理の帯」は神の武具の中でも全体を覆っているものです。敵であるサタン(悪魔)は「偽りの父」です。神のことばを疑わせ、キリストの語った言葉を人々が理解できないように覆いをかけます。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、・・あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」(ヨハネの福音書 8:31~32) と言われました。また、「わたしが真理である」とも言われました。ですから、真理の帯を腰に締めるということは、なにを隠そう、キリストご自身にとどまり、キリストのことばの中にとどまり、キリストの愛の中にとどまることなのです。それは「キリストを着る」という一言で言い表すこともできます。この一言で、神の武具は一括できるのですが、パウロはそのことをいろいろな武具を挙げることでより分かりやすくしようとしているのです。「義の胸当てを着けよ」とは、私たちの自己像(セルフイメージ)にかかわる武具です。つまり、自分が自分をどのように見ているかということ問題です。サタンの策略は私たちの自己像を低く見させようとしています。たとえば、「私たちの罪、欠点、弱さ、失敗、不祥事などを取り上げて非難し、神に受け入れられるにふさわしい資格や価値がないことを継続的に訴えます。」そのような訴えに私たちが耳を貸しますと—と言っても、敵が自分を訴えているとは思わせないので敵の巧妙な手口なので

すが・・・私たちの自己イメージは非常に低いものとなります。そのような低いセルフ・イメージからは、良いものが私たちの内から出てくるのが不可能になります。はじめから自分はだめな人間という敗北的な自我像をもって生きるならば、やがてますます自信のない生き方をするようになるのです。しかし、神の武具である「義の胸当てを身に着ける」ことによって、神が、キリストが私をどのように見て下さっているのかという視点の転換がなされるのです。

●そして、先週は「平和の福音」という神の武具の備えを足にはくということでした。「足」とは人とのかわりを示唆することばです。そのかわりにおいて平和を造り出していくことを意味しています。私たちの敵である悪魔(サタン)は「平和」が大嫌いです。常に、私たちの間に、人と人とのかわりの中にも争いをもたらし、様々な関係を破壊しようとしているのです。ですから、いかなる争いの背後にもサタンの戦略があるということを私たちは知っていなければなりません。そして、「敵意」や「隔ての壁」を作ろうとする私たちの罪から離れて、平和の福音を語りつつ、平和を作り出す者となることが求められています。

1. 「大盾」という武具

●まずは聖書のテキストを見てみましょう。

「これらすべての上に信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。」(6:16)

「大盾」(the shield of faith) ということばは、新改訳では「大盾」と訳されていますが、他の聖書(口語訳、新共同訳、柳生訳、フランシスコ訳)では、「盾」と訳されています。ここで使われていることばは、ギリシア語で「スレオス」(θυρεός)で、もともと「扉」とか「戸」を表すことばです。手で持ち回る小さな盾は「アスピス」という別なことばがあります。ですから、盾にも「大きな盾」と「小さな盾」があるようです。新改訳聖書は「大きな盾」を大盾として訳しています。



大盾のイメージ

—(上)警察機動隊の盾— —(下)東京基督教大学のロゴ—

●ちなみに、ペリシテ人ゴリアテの盾はどのくらいの高さであったかを調べてみると面白いかもしれません。それは、地面に立てられるほどの大盾です。足から胸、あるいは首までがスッホリと隠れるほどの大きな盾です。新改訳聖書では「これらすべてのものの上に」と訳されていますが、腰、胸、足を覆うものという意味に考えたらいとします。新改訳では「すべてのものの上に」と訳されていますが、元訳、文語訳を見ると「この他なお」と訳されています。つまり、前に出てきた、腰帯、胸当て、足のはきもの「に加えて」という意味です。

●こうした盾が必要だったのは、かなり昔から、火矢という恐ろしい武器から身を守るためであったと思われます。火矢が、1本、2本放たれたからといってもそれほど問題ありませんが、何百本という火矢が飛んできたらどうでしょう。おそらく相手はパニックになること間違いなしです。放たれた火を消す作業は敵に対して無防備になってしまいます。昔の盾は、現代の機動隊が使っているような金属製のものではなく、木製の盾に動物(獣)の皮を貼ったものだったようです。この獣の皮に水を吸わせることで火矢を消すことができたようです。盾とい

う武具は、敵の放つ火矢から身を守る上でなくてはならない武具の一つでした。腰の帯や胸当てをつけていても火矢の前にはなすすべもありません。

2. 「信仰の大盾を取る」とは・・・

●ところで、私たちは単なる大盾を取るのではなく、「信仰の大盾を取る」ということはどういう意味なのでしょう。信仰の大盾とはどんな神の武具なのでしょう。それを検証するために、聖書の中に「盾」という思想、ことばが出てくるところを見てみたいと思います。聖書の中で「盾」ということばが一番、最初に出てくる箇所は創世記の15章です。そこを見てみましょう。

15:1 これらの出来事の後、主のことばが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。

「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」

●この箇所は、神である主がアブラムに対して語ったことばです。その中に、「わたしはあなたの盾である。」と宣言しているのです。「恐れるな。わたしはあなたの盾である。」(創世記15章1節)。実は、アブラムが恐れに取りつかれる十分な理由がありました。アブラムは甥のロトと別れた後に、ロトとその家族が彼らの周辺の国々の戦いに巻き込まれて、すべての財産を奪われ、連れ去られるという事件が起きました。そのことを聞いたアブラムは自分の親類が捕虜となったことを聞いて、その家族を救い出すために追跡しました。その数、なんと、318人で追跡し、敵を打ち破って、ロトとその家族を救い出しました。しかし、これによって自ら当時の力をもっていたゲドルラオメルという王を敵に回しました。いつなごき、敗北の汚名を削ぐために復讐されるか分からない。そんな恐れがあったはずで

●そればかりではなく、何とも言えない心細さ、失望感、一向に実現しない神の約束、なかなか希望が見出せないという焦燥感・・・そういったものがアブラムの心の中を吹き抜けていました。その頃に、彼に臨んだ主のことばが「恐れるな。わたしはあなたの盾である。」であったのです。

●アブラムに対する神の約束は、①万民祝福の基としての約束 ②子孫繁栄の約束 ③カナンの土地の賦与の三つです。すでにカナンの地に入ってから10年以上も経過していましたが、実際、何一つとして実現したものはありませんでした。いまだ、実現の兆しは見えなかったのです。一坪の土地さえ与えられていませんでした。約束の子が与えられる兆候もない。何一つ実現されていない状況で、主は語られたのです。「アブラムよ。恐れてはならない。わたしがあなたの盾である。あなたの受ける報いは甚だ大きい。」と。

●敵から守る城壁、避難する囲いもない。全く無防備の状態です。ロトを救い出した時は、ある意味で、奇襲攻撃をかけて、少人数でもたまたま勝つことができたかもしれない。しかし、もし敵が再度、戦いの構えを見せたならば、この人数で果たして勝つことができるだろうか、そんな恐れや不安があったことは否めません。しかし、アブラムに臨んだ主のことばは、目には見えずとも、誰をも寄せ付けることのない盾がアブラムの回りにあるという神の宣言のことばだったのです。このことを知ること以上に心強いことはありません。この神の盾があることを信じて受け取ることが、信仰の大盾という武具です。イザヤ書54章17節には「あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。」とあります。その意味するところは、神の絶えることのない神

の御手という「盾」があるからなのです。

●アブラハムに対して語ったこの神の宣言が、詩篇では**信仰告白**として語られます。

3:3 主よ。あなたは私の回りを囲む盾、私の栄光、そして私のかしらを高く上げてくださる方です。

5:12 主よ。まことに、あなたは正しい者を祝福し、大盾で囲むように愛で彼を囲まれます。

18:30 主はすべて彼に身を避ける者の盾。

119:114 あなたは私の隠れ場、私の盾・・・。

●しかし、この告白は神に対する明確な信仰、信頼がなければ力を持ちません。士師記5章に、カナン之王ヤビンの將軍シセラがイスラエルを攻めてくる話があります。シセラは鉄の戦車9百両を持つ軍隊の將軍です。一方のイスラエルは1両の戦車もありません。あるのは歩兵のみです。普通の見方では、イスラエルに勝ち目があるでしょうか。当時の戦車は私たちがイメージする戦車ではなく、馬立てのものです。それでもかなりの殺傷力を誇ることできる戦力でした。戦いは、鉄の戦車9百両対1万の歩兵です。

●イスラエルの女預言者デボラは、イスラエルの部隊の隊長バラクにこう言いました。「さあ、やりなさい(戦いなさい)。きょう、主があなたの手でシセラを渡される」と。神はどのようにしてこの戦いにイスラエルを勝利に導いたと思いますか。この戦いの後に、デボラとバラクが歌った勝利の歌の中に実は答えがあるのですが、それによれば、「主が進み行かれた時、大地は揺れ、天もまた、したたり、雲は水をしたたせした。」とあります。つまり、戦いが始まったとき、地震が起こり、同時に大雨が降ったために、地面は水浸しになり、敵の戦車は使いものにならなくなってしまったということです。敵の將軍シセラは、鉄の戦車から飛び降り、徒歩で逃げましたが、他のシセラの陣営はみな剣の刃に倒れ、残された者はひとりもいなかったのです。

●この戦いでは神がイスラエルの盾となりました。戦力では劣るイスラエルが勝利できた大きな要因は、戦いが始まるや否や、激しい雨が味方したのです。だれがそんな戦いを想像し得たでしょう。神が盾となられるということはこういうことなのです。でもいつも同じことが起こるだろうかと恐れるのが、私たちです。たまたまその時は、そうだったけれども、次回も同じ奇蹟が起こるだろうか—そんな疑問や恐れや心配が襲ってきます。神は、ご自身が盾となってどんな戦いや試練の中でも守って下さるといふ約束をして下さっていますが、そのためには、神を信じて、神を信頼するという姿勢が求められます。

3. ハイ・リスク、ハイ・リターンへの信仰

●信仰の盾という武具を受け取ることは、人間的に見るならば「ハイ・リスク」を背負うということです。

「ハイ・リスク」があって、はじめて「ハイ・リターン」が可能となる世界です。「ハイ・リスク」と「ハイ・リターン」ということばは、本来、投資信託(ファンド)で使われる用語です。リスクというのは「不確実性のこと」です。リスクが高いこと、つまり「ハイ・リスク」は、それだけ不確実性が高いということになります。投資する場合、儲かる確実性が高いところでは、その見返りは少なくなります。リスクが低いところでは「ハイ・リターン」は期待できません。そこそこです。たとえば、銀行に預金する場合にはリスクはありません。とはい

אגרת שאול אל האפסים

え、最近では銀行も倒産する時代なので全くリスクはないとは言えませんが、たとえ倒産したとしても、預金額 1 千万円までは保険でカバーされて、たとえ銀行が倒産しても、その分だけは間違いなく 100%確実にリターンされますが、その利率は雀の涙程度です。

●リスクが低く(つまり、確実性が高い)のに、「ハイ・リターン」が期待できるといううまい話はこの世にはないわけです。「ハイ・リターン」が期待できるところには、必ず「ハイ・リスク」が求められます。つまり不確実性が高いのです。信仰の世界における生存と防衛の保障は、「ハイ・リスク」で「ハイ・リターン」です。人間的に見るならば、目に見える確実性はなく、不確実性が高いのですが、神に信頼すること、つまり神に自らを投資信託することで、その見返りはきわめて大きいという世界なのです。ですから、安心して、神第一で生きることができるようになります。



●「安定志向か、それとも信仰的冒険か」、アブラハムに対する神の約束、つまり、「**アブラハムよ。恐れてはならない。わたしがあなたの盾である。あなたの受ける報いははなはだ大きい。**」という約束は「ハイ・リスク」、「ハイ・リターン」の保障なのです。「ロー・リスク」は「ロー・リターン」しか期待できません。それは安定志向の生き方です。しかし、「ハイ・リスク」「ハイ・リターン」こそ、信仰的冒険の生き方なのですが、神の視点から考えると最も安心できる道なのです。これが信仰の道です。

●神によって選ばれたイスラエルに神が期待された生き方は、「ハイ・リスク」「ハイ・リターン」の生き方です。戦いの場合、神の民たちはしばしば神の奇蹟的な介入によって勝利しました。確かに、その時の戦いは勝利できたとしても、次の戦いに直面した場合に、神が果たして奇蹟的に介入して下さる保証は見えません。ただ信じるだけです。具体的にどんな奇蹟的なみわざをして下さるのかは、そのときになってみなければ全く分からないわけです。その意味で、不確実性が高いということでハイ・リスクです。しかし、神に信頼するならば、常に「ハイ・リターン」という大きな、思いがけない祝福にあずかることができます。

●戦いにおける勝利、生存の保障、防衛の保障を得るためには、神だけを信頼するという「ハイ・リスク」が課せられた生き方を生きることです。それが神の民のこの世での不思議な生き方なのです。イエシュアはこう言われました。「神の国と神の義とを第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」「これら」とは、食べたり、飲んだり、着たりすること(生存と防衛の保障)です。これらがみな必要であることを天の父は知っておられます。神を第一として生きるものに、神の事柄に専心して与えられる霊的祝福だけでなく、それに加えて私たちに必要な生存と防衛の保障を、付録として与えるというみことばなのです。

●安定志向の生き方は「ロー・リスク」ですから、神の奇蹟的なみわざを経験することはありません。しかし信仰的冒険は「ハイ・リスク」を伴いますので、それなりの「ハイ・リターン」が期待できるわけです。あなたはどちらの生き方を選び取りますか。神の与えて下さっている武具をぜひ取ってください。いつもハラハラ・ドキドキがありますが、ウキウキもあるのです。神のすばらしい奇蹟的なみわざを経験しながら、神が今も生きておられることをあかしする者になりたいと思います。